

11月上旬成熟の早生ウンシュウ新品種‘肥のあすか’の特性

○坂西 英・満田 実¹⁾・藤田賢輔・磯部 暁
(熊本農研セ果樹・¹⁾熊本県立農大)

【目的】

11月から出荷が始まる本県産‘興津早生’は、成熟期に達していないことから、着色・食味不足が指摘されている。このため、11月上旬に完全着色し、高品質で食味が良く、栽培しやすい早生ウンシュウを育成する。

【育成経過】

1981年に果樹研究所植栽の‘肥後早生’（‘宮川早生’の珠心胚実生）を種子親に‘ミネオラ’を交配し、1982年に胚分離・培養後、3年生カラタチに寄せ接ぎし85個体の珠心胚実生を養成した。

その後、優良個体を獲得しやすい葉や枝条形態の個体を34個体選抜して1985年にウンシュウミカンを中間台として1個体3反復で高接ぎを行った。1985年から2001年にかけて高接ぎ検定および苗木検定を経て個体番号「k-811」を選抜し、2004年11月8日に‘肥のあすか’の名称で品種登録された。

【特性の概要】

樹姿は中間型で、樹勢はやや強く、葉の大きさおよび枝梢の長さは‘興津早生’とほぼ同じである。枝梢にはトゲが部分的に発生することがあるが、栽培上の問題にはならない（データ略）。

果実の大きさは120g位、果形指数は120程度で‘興津早生’と同程度であるが、着色が‘興津早生’より1週間程度早く、果皮色が濃い。

果汁成分については‘興津早生’と比較して、糖度は同程度で、クエン酸がやや低い傾向にある。また、じょうのう膜が薄く、食味は良好であり、シートマルチ栽培を行うことにより、さらに食味は向上する。

以上のことから‘肥のあすか’は、着色が早く、食味が良いため11月上旬に成熟し、収穫・出荷が可能であり、‘興津早生’と同様に樹勢がやや強いため、栽培しやすい早生ウンシュウとして期待できる。

第1表 ‘肥のあすか’の果実形態および果汁成分(2001, 2003, 2004年)

品種名	平均果重 g	果実横径 cm	果形指数	果肉歩合 %	果皮		果汁成分	
					着色歩合 分	果皮色 ^{a)}	糖度(Brix)	クエン酸含量 g/100ml
肥のあすか	122.3	6.8	126	80.7	9.8	7.1	11.2	0.81
興津早生	119.6	6.4	125	81.3	9.4	6.6	11.5	0.83

注) 調査日は2001, 2003, 2004年の11月1日時点。シートマルチを8月中旬に実施。

a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートを用い、果頂部の最も着色が進んでいる位置を測定

